



◆ 耐久祭 ◆

—音楽部門・展示部門・グランド競技—



今年度も新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行いながら、文化祭を開催しました。展示部門は10月18日から11月12日までの期間に主に1階掲示場所で、音楽部門は11月1日に体育館でそれぞれ日頃の練習の成果を発表しました。8月から約1ヶ月続いた分散登校の影響もあり、各クラブとも準備に苦労をしたようですが、皆が揃って登校してからは、今まで以上に心を一つにして熱心に活動していました。展示部門では、家庭部の刺し子、美術部や書道部の力強い作品を見ることができました。音楽部門では、学年別に演奏を鑑賞し、マンダリンの美しい音色や合唱部の歌声とハーモニー、吹奏楽部の楽しく力強い合奏に、普段では感じることでできない楽しい時間を過ごしました。同日放課後には中庭で有志による演奏・歌唱発表があり、多くの生徒たちが鑑賞し、温かい拍手に包まれました。

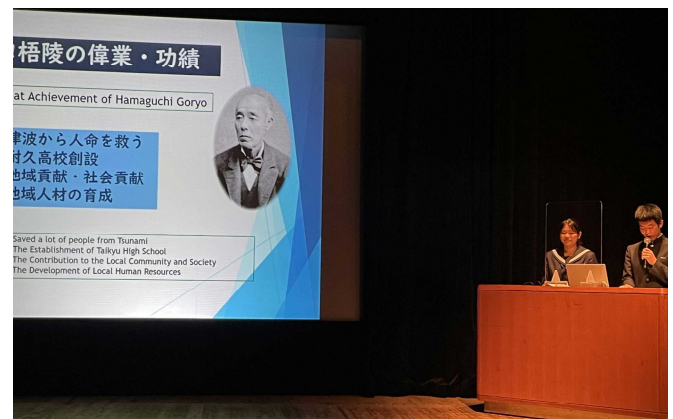


2日目はグランド競技を行いました。文化祭関連行事として開催したので、初めて実施する楽しい競技も多くありました。自転車ののろのろ競走、仮装大賞、四字熟語当て競争に、皆で一生懸命準備し取り組んだ結果、参加している生徒、応援している生徒の笑顔を見ることができました。特に仮装大賞では、アニメのキャラクターに扮し、なりきって演じた結果、爆笑の渦につつまれたシーンもありました。四字熟語当て競争では相手チームに出題する問題を懸命に準備し

た結果難しくなったので、最後まで解くことができなかったチームも見られました。また、8の字大縄跳びやリレー競争では、応援に励んでか、記録を大いに伸ばしました。



◆ 濱口梧陵偉業顕彰シンポジウムで耐久生発表 ◆



11月5日（金）「世界津波の日」、和歌山県民文化会館小ホールで濱口梧陵偉業顕彰シンポジウムが開催され、耐久高校生徒を代表し、2年生一角諭宜さんと岩崎梨好さんが事例発表を行いました。「受け継がれる梧陵の精神」と題した発表では、梧陵氏らによる耐久高校の創立、沿革を説明し、現在の耐久高校で行われている防災訓練や地域社会での取組事例、世界津波サミットでの活躍の様子等を紹介しました。途中、クイズを取り入れて、観客の皆さんにも参加していただき、雰囲気少し和むシーンも見られました。今回、発表者2名は耐久生として濱口梧陵氏の功績を再確認し、防災に対する意識をさらに高めることができ、在校生や一般の方々にも同じことを知ってもらいたいという思いを強く持ったようです。同日校内でも、防災学習として、全校生徒で、シェイクアウト（地震から身を守る安全行動）訓練を行った後、シンポジウムを各教室で視聴しました。

